

第1回熊本城復旧基本計画検証委員会における主な意見

※発言順に記載

No	委員		意見・要望等	回答・対応等
	氏名	分野		
議事1 現在までの実施状況				
1	坂本委員	経済・観光	財源内訳の基金部分の内訳を詳細に示してほしい。	別紙で説明
議事2 「短期計画工程」及び「施策と具体的な取り組み」に関する検証				
2	原委員	文化	現計画で20年の計画期間の中で、今後の事業量が右肩上がりの急カーブになっている。その点について検証を。	資料3で説明
3	北野委員	考古学 (石垣)	修復検討委員会と保存活用委員会がそれぞれ独立している現在の体制では、トータルのすり合わせができていない状況。改善の検討をお願いします。	(当日回答) 今後はそれぞれの委員会の状況が伝わるように検討する。
4	山尾副委員長	土木工学 (歴史遺産)	当初の計画より早めに着手できた部分について、それが可能となった理由は？	(当日回答) 崩落石材の回収等、金額的にも事業者の確保についても比較的融通のききやすい業務が早期に着手できた。
5	山尾副委員長	土木工学 (歴史遺産)	今回の検証の結果をふまえて、当初策定した復旧基本計画の内容を変えていくのか。	(当日回答) 第2回委員会までには精査をしてお示しする。 資料3で説明

第1回熊本城復旧基本計画検証委員会における主な意見

※発言順に記載

No	委員		意見・要望等	回答・対応等
	氏名	分野		
議事3 石垣・建造物等の復旧に関する検証及び課題の整理				
6	坂本委員	経済・観光	標準工期と実績の違いについて、それぞれの工程で説明を。	資料3で説明
7	北野委員	考古学 (石垣)	報告書作成についての労力も考慮に入れて組織と期間を見積もってほしい。	資料3で説明
8	北野委員	考古学 (石垣)	石工の育成は継続して現場に参加してもらうことが重要。同じ人が続けて工事に携わっていただけるような仕組みづくりを。	資料4-8で説明
9	蓑茂委員長	造園学	伝統技術・伝統技能はOJTが基本。熊本城が期限付きで仕組みを作るなどの提案を。	資料4-8で説明
10	坂本委員	経済・観光	人材確保は大きな問題。高校に石工学科をつくるなど、大きな視点で育成の取り組みを。	資料4-8で説明
11	蓑茂委員長	造園学	人材育成は一つの方式ではなかなか答えが出ない。高校の専門教育での人材養成と、現場での人材育成とを繋げるようなパターンも検討しては。	資料4-8で説明
12	原委員	文化	石垣復旧の取り組みは「熊本モデル」として全国の先駆けになる。次世代に繋ぐためにも映像による記録等で残していただきたい。	資料4-5で説明

第1回熊本城復旧基本計画検証委員会における主な意見

※発言順に記載

No	委員		意見・要望等	回答・対応等
	氏名	分野		
議事4 復旧過程の段階的公開と活用に関する検証及び課題の整理				
13	北野委員	考古学 (石垣)	文化財の公開・活用は「見て、触れて、やってみて」が大事。石曳きや石割りの体験や石に触れる機会など、「見える化」に留まらない公開を。	資料4-5、資料4-8で説明
14	北野委員	考古学 (石垣)	情報公開では動画の活用も検討してほしい。	資料4-5で説明
15	北野委員	考古学 (石垣)	学校・教育等の活用については、白河市小峰城の小学生を対象にした取り組みなども参考に。	資料4-5で説明
16	坂本委員	経済・観光	見学通路の活用とあわせて、体験型の観光についてもどこかの場所で考えていただきたい。	資料4-5で説明
17	伊東委員	建築学 (日本建築史)	お城に詳しい人に満足して帰ってもらうことも重要。復旧に伴う調査研究の成果の展示を。	資料4-5で説明
18	蓑茂委員長	造園学	「見える化」については、視覚だけではなく五感を使って実感してもらうことも重要。	資料4-5で説明
19	蓑茂委員長	造園学	出版物を作って終わるのではなく、利用する人が増えるような検討を。	資料4-5で説明
議事5 今後のスケジュール				
20	坂本委員	経済・観光	寄附金の使い道について情報発信を。	3月に予定しているシンポジウムで取り上げるとともに、SNS等において随時情報発信を行う。